



千葉労働動向

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 { (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

94.8.2 No. 4038

貨物
関東支社

『中長期計画』を提案

社長の基地売却発言許すな

JR貨物関東支社は、七月二
九日、「中長期計画の骨子(案)
」を提案した。これは、七月七
日の本社提案とほぼ同じ内容で
あるが、整理すると別表のよう
になっている。

これに対し、組合側から、
(1)一二月三日とダイ改の期日
が決定されたのに具体的な細
部がまだ煮詰まっていないの
はどういうことなのか、本社
・支社と「中長期計画」を打
ち上げるばかりでいたずらに
職場に不安を煽るようなこと
はやめよ。

(2)業界紙で、社長自らが、「
千葉(夕)、越中島、飯田町」
などの土地売却を公言してい
る。先日説明された今年度の
「支社経営計画」では、「京
葉線列車乗り入れの検討」が
「課題」の第一にあげられて
いるのに、どういうことなの
か。支社としてどう考えてい
るのか。

等々、ダイ改の細部や労働条
件が全く明らかにされていない
こと。「京葉線乗り入れ」等の
施策が団体交渉で説明されたに
も関わらず、その直後に社長等
経営中枢が業界紙・誌等で団体
内容とは反する発言を繰り返す
など、貨物会社の対応に対し、
怒りを表明していった。

これに対し、関東支社は、「
ダイ改の細部は、九月には明ら
かに出来る。」「社長発言につ
いては、何故あのような発言と
なったのか内容を確認した訳で
はないが、業界紙などで言われ
たことは、実現する場合があり
うる。」などという不誠実であ
りまいた回答に終始した。

こうした貨物会社の対応に対
し、組合からは「ダイ改の細部
を一刻も早く明らかにすること
職場に混乱を持ち込む会社中枢
の発言は慎むべきこと。」を強
く求めた。

検修体制の将来展望について

続いて検修職場の将来展望に
ついて申し入れた動労千葉申第
二七号に関して団交が行われた。
問題は検修職場では五五才
到達者の強制出向にも関わらず、
新規採用者の職場配属など出向

者の後補充が出来ないこと。ベ
テラン技術者が職場から排除さ
れることによって、著しい技術
段差が発生し、より一層深刻化
せざるを得ないことである。
検修体制の問題点は、国鉄分割

・民営化過程から今日まで動労
千葉は一貫して指摘し続けてき
たことであるが、五五才到達者
の激増を前にして、職場に深刻
な問題突き付けている。動
労千葉としては、今回申二七号
として申し入れを行ってきたが、
今後「中長期計画」の提案され
るなかで、この検修体制の問題

はより一層深刻となっていくこ
とは必至である。そしてこの問
題は、貨物・旅客を問わず、全
ての検修職場の問題でもある。
当面、分割・民営化体制見直
しJR一〇万人首切り攻撃の
突破口としてある一二月ダイ改
阻止へ貨物・旅客を貫いて全力
で闘おう！

貨物大合理化を許すな

時期	第1段階 94~97年度初	第2段階 2000年度初	第3段階 2003年度初
位置付け	「緊急3カ年計画」	総体の経営基盤整備	諸課題解消と上場
鉄道事業部門	収支構造改善	事業基盤確立	発展と成長
コンテナ	2300万トン	2800万トン	3000万トン
車扱	3100万トン	2200万トン	2000万トン
輸送体系	直行化へ再編 リストラ	直行化の拡充 リストラの完了	拡充、強化 大量、直行に特化
要員体制	8000人体制	7000人体制	5~6000人体制
関連事業部門	基盤の確立	売上高 250億円	売上高 300億円